資料２

建築・都市整備・道路委員会資料
令和５年３月８日
都市整備局

都市計画マスタープラン等改定の検討状況について

１ これまでの取組

「都市計画マスタープラン」、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」及び「３方針※」の改定について、令和４年６月 22 日に都市計画審議会に諮問しました。

庁内会議での検討を進めるとともに、都市計画審議会の小委員会において、現行プランの振り返りや改定の基本的考え方等についてご議論いただきながら、改定に向けた検討を進めています。

また、線引き全市見直しの考え方についても、建築局において、都市計画マスタープラン等の改定とあわせて諮問・検討をしています。

※「都市再開発の方針」「住宅市街地の開発整備の方針」「防災街区整備方針」の３つの方針のこと。

(1) 小委員会の開催状況

・第１回（令和４年７月 14 日）　：現行プランの振り返り、改定の基本的考え方等
・第２回（令和４年９月２日）　：都市づくりのテーマ（経済、暮らし）
・第３回（令和５年１月 20 日）　：都市づくりのテーマ（賑わい、安全安心、環境）
　地域別構想の方向性（区マスタープラン）

(2) 小委員会の委員構成

区分		氏名	職業等
学識経験のある者	都市計画	高見沢　実※	横浜国立大学大学院教授
	交通計画	森地　茂	政策研究大学院大学教授
	都市計画	小泉　秀樹	東京大学大学院教授
	不動産マネジメント	齊藤　広子	横浜市立大学国際教養学部教授
	環境デザイン	池邊　このみ	千葉大学大学院教授
	都市防災	石川　永子	横浜市立大学国際教養学部准教授
横浜市会議員		磯部　圭太	建築・都市整備・道路委員会委員長
横浜市の市民		小宮　美知代	横浜のまちづくりに携わった経験のある者
臨時委員		藤原　徹平	横浜国立大学大学院准教授

※委員長

２ 次期プランの構成

「都市づくりの歴史」と「都市の変化の兆し」を踏まえ、「目指すべき横浜の都市像」を描くとともに、「都市づくりのテーマと方針」や「都市像の実現手段」を示していくことを基本として、検討を進めています。

３ 小委員会での検討状況

【都市づくりのテーマ】

≪テーマ①経済≫ 企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

目指す姿　“研究→実証実験→開発→製造→消費”が一つの自治体に揃う横浜の強みを最大限に生かし、経済の循環を生み出す。

≪テーマ②暮らし≫ 自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

目指す姿
- 地域に暮らす多様な人が、それぞれの趣向に応じて伸び伸びと暮らし、その個性が地域の力になっている。
- そうした多様な人が、楽しみ、働き、活躍できる色々な場と機会が地域に溢れている。
- 家からその場まで、誰でも気軽にアクセスできる。（情報アクセス・移動アクセス）

≪テーマ③賑わい≫ 幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

目指す姿
- 国内外から多くの人を誘引する「賑わいの核」が、都心部にも郊外部にも形成されている。
- それぞれの歴史や個性に基づくその地域らしい賑わいが、住民や企業の愛着を育む。
- 都市基盤と支援策の充実により、各地の賑わいを支え、より引き出している。

≪テーマ④環境≫ 豊かな自然環境を市民一人ひとりが実感できる都市づくり

目指す姿　過去の急激な都市化の中でも自然と都市が近接している都市構造を維持・形成してきた。

この都市構造を生かして、脱炭素をはじめ国際的にグリーン社会への移行が求められる中、都市生活が自然と共にある「グリーンシティ」の姿を、市民一人ひとりが実感しながら暮らしている。

≪テーマ⑤安全安心≫ 激甚化する自然災害等のリスクを踏まえた安全・安心の都市づくり

目指す姿　様々なリスクに対する取組と、都市の潜在力とが繋がり、安全安心で、さらに魅力的な都市となっている。

【地域別構想の方向性（区マスタープラン）】

将来のまちづくりに活用される区プランとすることを目指し、わかりやすさを重視し、区の特徴、特性を活かしたまちづくりの記載を充実する。

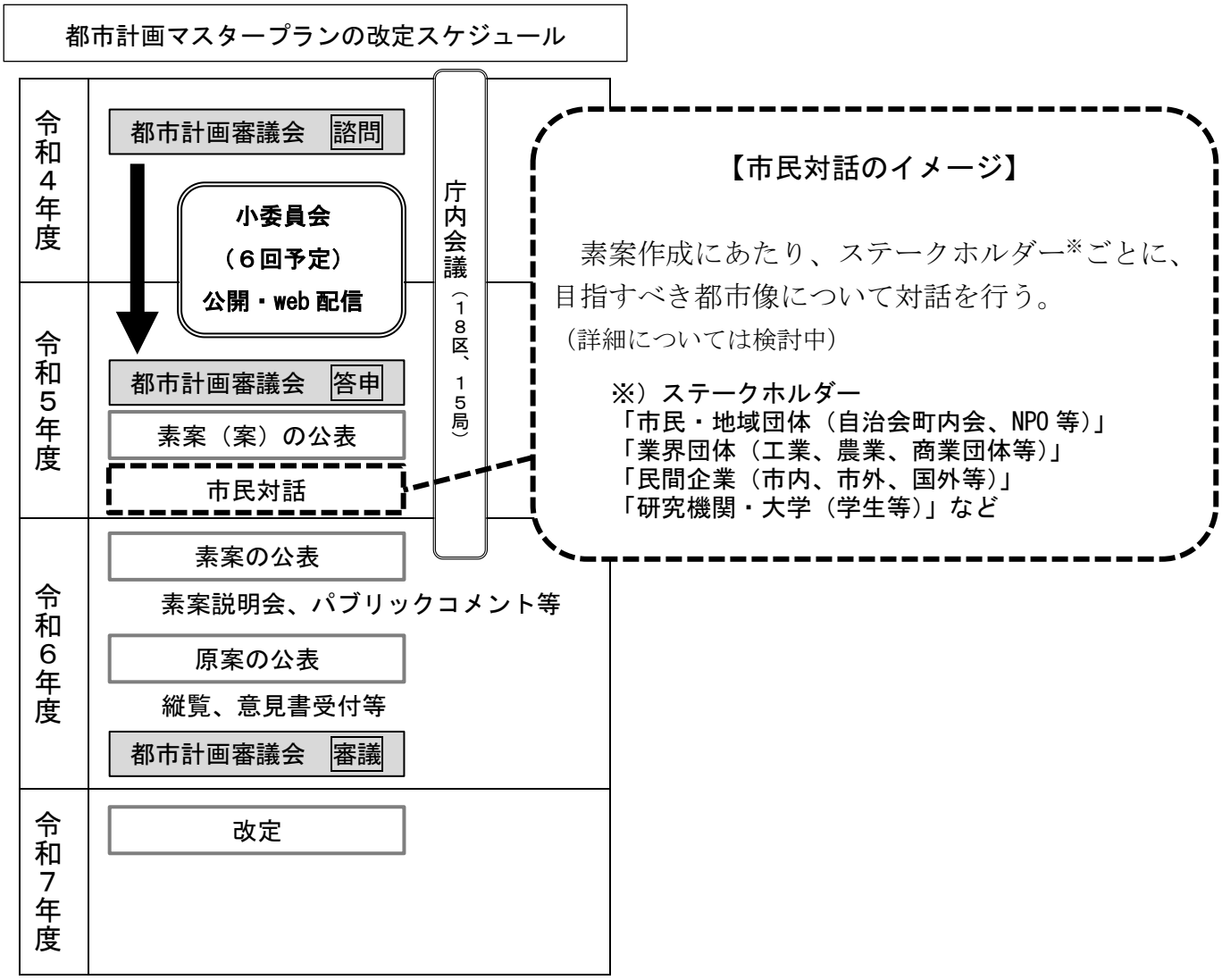
【委員からの主なご意見】

・「横浜らしさ」について、明快に出すべき。

・プランがあるだけでは、市民が求める都市づくりは実現しない。そのため、プランの実現に向けた具体施策も併せて検討し、市民や企業の皆様にお示しする必要がある。

４ 今後の進め方

都市計画審議会での議論とともに、適宜常任委員会にもご報告しながら、現行プランの目標年次である令和７年度前半の改定を目指して、検討を進めます。



１．第２回小委員会までの振り返り

経済　1

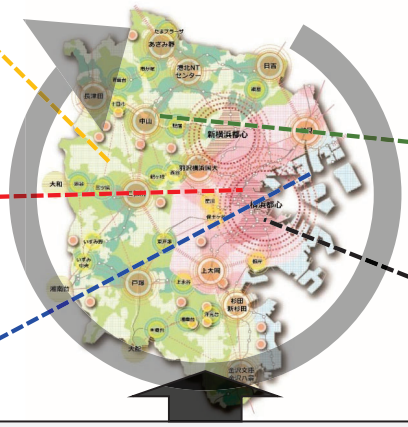
目指す[経済]の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

研究→実証実験→開発→製造→消費が１つの自治体に揃う横浜の強みを最大限に生かし、経済の循環を生み出す。

日本最大の消費地
375万人の住民や、横浜を訪れる観光客

業務集積第2ステージ
MM21完成後も、横浜に企業を呼ぶ場所を生み出す都心部再開発の促進

研究・生産機能強化
企業が持つ優れた力を、エリアのブランドにするまちづくり



市内27大学のポテンシャル向上
①産学連携の推進
②土地利用（都市計画）制度の面からの支援

イノベーション創出環境支援
横浜の街を実験フィールドとした「新しいものへのチャレンジ」への支援

つなぐ機能の強化（主体間の連携を促すしくみ／モノや情報のスピーディな移動）

経済

「経済」のテーマの設定案

企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

出典：第2回小委員会資料より抜粋

主な委員意見

員会までの振り返り

経済　2

目指す[経　　針 の前提となる考え方）

研究→実証　　自治体に揃う横浜の強みを

最大限に生

日本最大の消
375万人の住民
る観光客

業務集積第2ステージ
MM21完成後も、横浜に企業を
呼ぶ場所を生み出す都心部再開

市内27大学のポテンシャル向上
①産学連携の推進
②土地利用（都市計画）制度の面からの支援

連携を促すしく

経済

「経済」のテーマの

企業・市民・大学の持つポテ
チャレンジを支援し、連携を

大学との連携

- 大学は立地条件（市街化区域か市街化調整区域）によってニーズが異なる。具体的に何ができるか
- 横浜の大学数は人口割合だと少ない。そこは認識を改めるべき

産業施策

- カーボンニュートラル、農業、福祉などの産業について、都市計画がどう対応していくのか
- 若者が勤めたくなるような業種の集積が必要

都心部・臨海部

- ウォーターフロントの未来図がない。関連計画も確認し、エリア特性を踏まえた空間戦略を検討すべき
- 臨海拠点整備は横浜市では進んでいない。産業拠点については大学との連携も含めて考えるべき
- 都心らしい職住近接のあり方の検討が必要。都心商業地のポテンシャルも生かす

出典：第2回小委員会資料より抜粋・加筆

2．都市づくりのテーマと方針

経済　3

経済

「経済」のテーマの設定案

企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

分析の視点①：産業構造

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・**製造業**が市内総生産に占める割合は**減少傾向**が続く ・**学術研究、専門的・技術的サービス業**及び**医療、福祉**の事業所数、従業者数は**増加傾向**	・臨海部および内陸部の工業系用途地域には、**立地特性に応じた業種の企業が集積**	・京浜臨海部における**世界最先端技術**の創出拠点や、**新たな成長産業**の集積など（京浜臨海部再編整備マスタープラン） ・様々なプレーヤーが集う**研究開発の集積地**へ（新たな中期計画の基本的方向）

①　産業特性を活かした戦略的な産業拠点形成

- MM21地区の建設フェーズの終了を踏まえ、その後の企業集積につなげる**都心部の特性に応じた更なる業務機能強化**（横浜駅周辺での土地の高度利用や、関内を中心としたスタートアップ集積など）
- 高い技術力を持つ企業の**生産・研究機能の支援**と、企業が活躍できる街づくり（インフラ・土地利用）による、**エリアのブランド形成を通じた産業集積**（京浜臨海部での新たな成長産業の拠点形成推進や、臨海南部での産業拠点の機能更新など）

2．都市づくりのテーマと方針

経済　4

経済

「経済」のテーマの設定案

企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

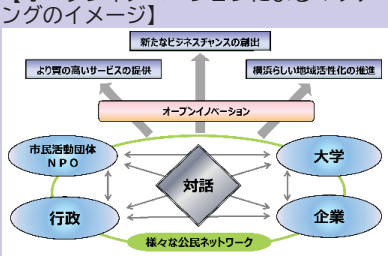
分析の視点②：革新（イノベーション）と創造（クリエイション）

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・**イノベーション**の国際比較では、日本はまだ**相対的に低い**水準 ・我が国の**ESG投資**は世界各国と比較すると未だ低い水準ながら**年々投資規模は拡大**	・西区、中区及び鶴見区、神奈川区の臨海エリアを中心に**イノベーションを誘発する環境整備**が進む	・**「オープンイノベーション」**による新たな価値の創出（京浜臨海部再編整備マスタープラン） ・公民連携による**スマートシティ**の推進（横浜市地球温暖化対策実行計画）

②　革新（イノベーション）と創造（クリエイション）の創出環境支援

- イノベーションやクリエイションの創出機会となる**マッチングの場と機会の創出**
- 歴史的建造物の活用・海・公園・歩きたくなる街づくり等、**創造や出会いの場**となる環境整備。
- イノベーションやクリエイションの創出環境向上に貢献する**都市開発への支援**（容積ボーナス等）

【オープンイノベーションによるマッチングのイメージ】



様々な民間との対話によるオープンイノベーションで、共に新たな価値をＷＩＮ－ＷＩＮで創出

出典：「横浜市のオープンイノベーションの推進～リビングラボの取組を中心に～」横浜市 政策局 共創推進課

2．都市づくりのテーマと方針

経済 5

経済

「経済」のテーマの設定案

企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

分析の視点③：大学をハブとした産学連携

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・海外と比較して企業と大学の協働研究は**進んでいない** ・研究者・技術者の割合は他都市と比較して**多い**	・横浜市内には**27の大学・大学院が立地**し、このうち10のキャンパスは**調整区域に立地** ・大学周辺に**学術研究等の事業所の集積**もみられる	・**大学・地域・行政の連携**による地域の課題解決やまちづくり（横浜市中期計画　基本的方向）

③ 地域課題解決や事業創出に向けた、大学をハブとした産学連携環境支援

- 大学のキャンパス全体とまちとの連携拠点「イノベーション・コモンズ」の推進
- **大学の再投資や機能強化**に対する土地利用制度の面からの環境整備（市街化調整区域から**市街化区域への編入**など）

「イノベーション・コモンズ」のイメージ

「共創」の拠点としてのイノベーション・コモンズの実現に向けて（令和３（2021）年4月23日　文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室）

2．都市づくりのテーマと方針

経済 6

経済

「経済」のテーマの設定案

企業・市民・大学の持つポテンシャルを伸ばし、チャレンジを支援し、連携を促す都市づくり

分析の視点④：交通ネットワークと産業

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・**都市計画道路**の整備率は令和４（2022）年３月末時点で**69.4%**	・3環状10放射道路と高速道路により、市内外をつなぐ広域道路網が構築されている ・埠頭が多い臨海エリアのほかに、高速道路IC周辺においても**物流施設の集積**がみられる	・**広域的なネットワーク**の構築、IC及び横浜港へのアクセス（横浜市道路整備プログラム） ・**国際クルーズ拠点機能**や**国際空港へのアクセス強化**（横浜市都市交通計画）

④ ネットワークの強化と戦略的な産業誘致・育成

- 道路や鉄道などの立地ポテンシャルを生かした**戦略的な産業誘致**や育成（農・ロジスティクス・脱炭素・バイオ・ITなど）
- 生産・研究開発機能の集積地における**新たな企業誘致の支援**
- 道路や鉄道などの着実な基盤整備による**ネットワーク形成・強化**

1．第２回小委員会までの振り返り

暮らし　7

目指す[暮らし]の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

性別・年齢・国籍等問わず

①地域に暮らす**多様な人**が、それぞれの趣向に応じて伸び伸びと暮らし、その**個性が地域の力**になっている。

②そうした多様な人が、楽しみ、働き、活躍できる**色々な場**と**機会**が、地域に溢れている。

市民力を生かす
マネジメントのしくみ

・規制緩和による職住近接
・恵まれた公的資産（学校跡地、道路、公園など）
・市民や企業の活用を支援（開発時の機能誘導、空き地・空き家など）

③家からその場まで、誰でも**気軽にアクセス**できる。

・デジタル技術の活用　・地域交通

（情報アクセス・移動アクセス）

暮らし

「暮らし」のテーマの設定案

自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

出典：第2回小委員会資料より抜粋

主な委員意見　員会までの振り返り

暮らし　8

目指す[暮らし]の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

性別・年齢・国籍等問わず

①地域に暮らす多様な人が、それぞれの

活躍できる色々な場と機会が、
地域に溢れている。

・規制緩和による職住近接
・恵まれた公的資産（学校跡地、道路、公園など）
・市民や企業の活用を支援（開発時の機能誘導、空き地・空き家

地域の多様な人

- **外国人**に関する分析が必要
- **障害がある方**にも暮らしやすくなるまちを

地域の活力

- 活力を上手に使っていく上では、従来の点と点をつなぐだけではなく**新しいつなぎ方、つなぐ手段**を考える必要がある
- **駅から離れた**郊外の住宅地の多機能化に加え、**鉄道駅周辺**にも力を入れるべき

地域の公共施設・公共空間

- **図書館**等の施設は重要。地域愛を育むような公共空間のあり方を示すべき
- 子連れにとって道路整備は法律的にも不十分。**子連れの人のための空間**もポイント。また**「広場」という概念**を第2のMMで明確に打ち出せれば

地域のストック

- 地域のストックを活用することは大事。ぜひ打ち出してほしい
- みなし**空き家**は災害時のリソースとしても重要。また**学校**は地域防災拠点でもあり、配置に問題がないか確認が必要
- ストックを活用する**場や機会をどのように作っていくか**、マネジメント手法も考える必要がある

出典：第2回小委員会資料より抜粋・加筆

2．都市づくりのテーマと方針

暮らし　9

暮らし

「暮らし」のテーマの設定案

自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

分析の視点①：暮らし方･働き方の変化

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
･東京通勤圏内ながら**職住近接が根付いており、リモートワーク等もより一層普及する素地**がある	･郊外でも**駅を中心に一定の生活基盤や都市機能の集積**が進んでおり、住宅団地等の**既存ストックも豊富に存在**するが、更新や再生が必要	･**多様な暮らし方、働き方**を促進するための住宅地周辺の環境整備（住生活基本計画）

①　暮らし方･働き方の変化に対応した環境整備

- **身近な働く場、魅力的な余暇施設の充実、公園や緑地などオープンスペース**の整備・活用
- 職住近接を促進する、地域特性に応じたビジネス環境の整備と一体となった**都心らしいライフスタイル**の創出
- 都心・臨海周辺部や郊外部、鉄道沿線やバス路線沿線など、ゾーンやエリアの特性に応じた**生活利便施設**の確保

2．都市づくりのテーマと方針

暮らし　10

暮らし

「暮らし」のテーマの設定案

自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

分析の視点②：多様性（ダイバーシティ）

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
･高齢者の就業者は**増加傾向** ･外国籍就業者も市全体で**増加傾向**	･就労する女性の分布は、都心･臨海部や青葉区等では県外就労者が多く、**就業地が豊富な中区･金沢区･都筑区では自区内就労者が多い** ･外国籍就業者は都心･臨海部や都心に近い南部の区でやや高い傾向	･**誰もが働きやすい職場づくりや社会環境づくり**（横浜市男女共同参画行動計画） ･**地域福祉保健活動を推進するための地域の人材づくり**（地域福祉保健計画）

②　誰もが活躍できる機会の創出

- 性別や年齢、国籍を問わず誰もが活躍できる機会の創出など、**あらゆる市民が活躍するための環境整備**（身近な働く場や保育所の整備等）
- 子どもから高齢者まで、**まちレベルでの多世代の生活を支える基盤整備**（団地再生の機会を捉えた機能誘導等）
- **地域が主体となった取組への支援**（地域福祉保健計画と連動した拠点整備等）

2．都市づくりのテーマと方針

暮らし 11

暮らし

「暮らし」のテーマの設定案

自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

分析の視点③：日常生活の移動手段

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・市民の主要な交通手段は**鉄道が37.1%で最も多く**、次いで徒歩が27.0%となっている。	・通勤・通学に**バスを利用する人は鉄道沿線から離れたエリアに多い** ・**公共交通サービスの充実は栄区で中区、保土ヶ谷区**で比較的高い	・**マイカー交通から公共交通等への転換促進、交通結節点の整備・シームレス化**（都市交通計画） ・**生活道路の安全対策**（道路整備プログラム）　等

③　地域内・拠点間などキメ細やかな移動手段の導入

- 移動手段の確保や持続可能な運行につながる、**地域の取り組みへの支援や企業との連携**
- バス交通のハブとなる停留所など、身近な**交通結節点を中心とした機能の充実**
- ニーズに対応した自転車や**新たなパーソナルモビリティが利用しやすい通行環境の整備**

2．都市づくりのテーマと方針

暮らし 12

暮らし

「暮らし」のテーマの設定案

自分らしく楽しみ、働き、活躍できる場に溢れ、出歩きたくなるまち

分析の視点④：地域のストック

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・空き家率は**都心・臨海周辺部**で高いが空き家数では**港北区**が多い	・**ケアプラザ、地区センター**は市域全体に分布 ・**利活用が可能と考えられる資産が市内全域に分布**	・**多様な世代が交流するコミュニティの形成**（住生活基本計画） ・空家の流通・活用促進、管理不全な空家の防止・解消、空家の跡地活用（空家等対策計画）

④　既存ストックの有効活用による地域の生活利便性や価値の向上

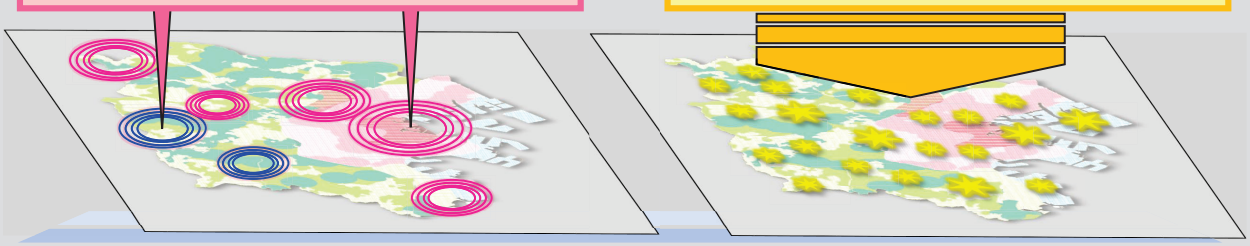
- **公的不動産や空き家等の既存ストックを活用し**、質の高いリノベーションやコンバージョンを誘導
- **多様な活動主体や地域の高齢者の就労機会となる拠点の運営**についても地域に対する支援を推進
- **空き家の流通促進に**よる地域活力の再生

◇みなまきラボ（相鉄いずみ野線沿線地域）
【既存の空き店舗等を活用した活動拠点】
（横浜市住生活基本計画　※H30現行計画）

目指す[賑わい]の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

国内外から多くの人を誘引する「賑わいの核」が、都心部にも郊外部にも形成されている。

それぞれの歴史や個性に基づくその地域らしい賑わいが、住民や企業の愛着を育む。



中・長期滞在可能なホテル等 ／ 魅力的な公共空間 ／ 夜の賑わい創出 ／ 多彩な交通サービスの充実 ／ 空き店舗の活用 ／ 地域ブランドの発信・定着 など

都市基盤と支援策の充実により、各地の賑わいを支え、より引き出している。

賑わい

「賑わい」のテーマの設定案

幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

主な委員意見

国際的な賑わい

- 「横浜らしさ」が国内向けの印象。国際的な知名度をもう少し上げるべき
- 国際会議への投資の遅れを放っておくと東京ばかりに集まってしまうが、どのように引っ張ってくるか。インバウンドのほとんどが都心商業に落ちていない。

賑わいの連続・広がり

- 拠点と施設だけでは不十分。例えば八景島だと、水族館と伊藤博文邸といった拠点と近隣の両方に焦点があたっている必要がある
- 公園や動物園、大さん橋、単体ではなく周りとどうつなぐか都市計画の課題

賑わいの姿

- 国際港湾都市、歴史都市など、どのような賑わいをつくるか。多様性のある賑わいを目指した方が良い。郊外住宅地の小さな賑わいを分けて議論しないと大雑把。
- 想定している賑わいが観光地的なものだけに見える。

公共空間の活用

- 公共空間の柔軟な活用を考えてもらいたい。保守的になりすぎず、民間活力を最大化してほしい
- 港の飲食店を比べると、サンフランシスコやニューヨークと比べて公有地の規制が強すぎる

2．都市づくりのテーマと方針

賑わい　15

賑わい

「賑わい」のテーマの設定案

幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

分析の視点①：賑わいの核

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・観光入込客の8～9割が日帰り ・国際会議、文化・芸術、買い物等を目的に多くの人が訪れる ・教育文化施設が賑わいの場となる事例が増えている	・利用者の多い施設は中区に多い ・市外からの私事目的来訪者の行先は西区と中区が多い ・郊外では通信施設跡地等において賑わい拠点形成が計画されている	・横浜のブランド力を高める空間づくり、まちの資源を利活用した横浜ならではの都市活動の推進（横浜市都心臨海部再生マスタープラン） ・国内外から選ばれる観光MICE都市としての魅力づくり（横浜市観光MICE戦略）

① 国内外から多くの人を惹きつける交流拠点の形成

- 横浜都心や新横浜都心における**商業機能や文化・娯楽機能の更なる集積**（適切な高度利用等）
- **郊外部における新たな活性化拠点**の形成（旧上瀬谷通信施設地区など）
- 教育文化施設やＭＩＣＥ、スポーツイベント等の**多くの人を惹きつけるコンテンツとの連携**

2．都市づくりのテーマと方針

賑わい　16

賑わい

「賑わい」のテーマの設定案

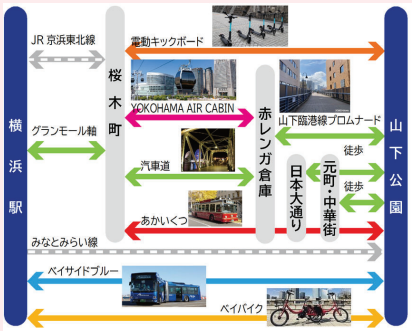
幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

分析の視点②：快適な滞在環境

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・街路、河川、公園が賑わい空間として活用されている ・本市のホテル・旅館等の客室数は地方主要都市に比べ少ない ・飲食店は大阪・名古屋に次いで多い	・宿泊機能は中区に多く、西区、港北区が続く ・来街者が利用する移動手段は多様であり、好みや状況に応じて移動手段を選択できる	・夜も朝も楽しめる魅力の創出と体験価値の向上（横浜市観光MICE戦略） ・都心臨海部の回遊性を高める新たな交通の導入、水上交通の強化・拡充（横浜市都心臨海部再生マスタープラン）

② まちの新たな魅力を提供する快適な滞在空間の形成

- 洗練された都心のイメージを高める**質の高い公共空間**の整備および**積極的な活用**
- **移動自体が楽しく感じられる**多彩な交通サービスの充実による**回遊性の向上**
- 短中期滞在も含めた宿泊施設の立地促進や、魅力的なイベントの開催による**夜間の賑わい創出**



横浜駅から山下公園までの多彩な移動手段

2．都市づくりのテーマと方針

賑わい　17

賑わい

「賑わい」のテーマの設定案

幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

分析の視点③：歴史や個性に基づく賑わい

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・地域固有の魅力を活用し、観光振興や交流人口の獲得を目指す取組を行われている	・象の鼻・大さん橋・山下ふ頭・馬車道駅周辺は歴史的建造物も多く、横浜らしいウォーターフロントを形成してきた ・多数のプロスポーツチームが都心・臨海周辺部に拠点を置く	・歴史的景観資源の賑わいへの貢献、親しまれ方など、多様な側面からの評価と必要に応じた保全・活用（横浜市景観ビジョン）

③ 地域それぞれの歴史や個性に基づく賑わい形成と、魅力の発信

- 横浜の歴史を今に伝える**文化財や歴史的な建造物の活用**、クリエイティブやアートなどの活動・表現による**都市空間の創造的な活用**
- 地域のまちづくりや商店街の振興、プロスポーツ団体との連携など、**地域ごとの資産や個性を活力につなげる**
- 交流人口の拡大に繋がるシティプロモーション（地域ならではの取組の発信　など）

2．都市づくりのテーマと方針

環境　18

目指す［環境］の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

過去の急速な都市化の中でも**自然と都市が近接している都市構造**を維持・形成してきた。

自然環境を身近に感じられる取組の推進
（自然共生を意識した環境の保全・創出、Park-PFIの推進、自然環境を支える市民活動への支援等）

脱炭素をはじめ、国際的にグリーン社会への移行が求められる中、**都市生活が自然と共にある「グリーンシティ」**の姿を、市民一人ひとりが実感しながら暮らしている。

環境

「環境」のテーマの設定案

豊かな自然環境を市民一人ひとりが実感できる都市づくり

目指す「環境」の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

Park-PFIの推進、自然環境を支える市民活動への支援等

自然と隣り合う都市

人ひとりが実感できる都市づくり

緑地・河川

- 色々な所から見える**斜面緑地は横浜の魅力。**景観を位置付けるべき
- **自然環境は単体であるわけではなく連続**させたりネットワーク化させることを意識すべき
- **川への言及が足りない。**川と賑わい、地域の暮らしというつなぎの検討は必須
- **花を生かしたブランディング**をして欲しい

農地

- **生産緑地を農地でなくても残せるような制度**を考えた方が良い。税制、メンテナンスの2つについて制度を組み直す提案をしてはどうか。
- **営農希望者への支援**と、**営農意欲がない土地の戦略的な土地利用転換**が必要
- **農業は忘れてはいけない大きな産業。**土地利用できちんと扱うべき

気候変動対策

- **環境にはエネルギーの問題**もある。どのようにまちづくりに生かしていくか
- **ESGファンド**については、サステナブルという言葉で環境に入れるべき
- **民間**、特に個人、地域、企業もしっかりと**取り組んでほしいというメッセージ**が伝わるようにすると良い

環境

「環境」のテーマの設定案

豊かな自然環境を市民一人ひとりが実感できる都市づくり

分析の視点①：脱炭素社会の実現

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・温室効果ガス排出量は**年々減少**。将来的に電力以外のエネルギー消費量が減少 ・市内における**温暖化は年々進展**	・省エネルギー、再生可能エネルギー等の導入は市内各地で取り組んでいる ・地域防災拠点となる小中学校に蓄電池を置き**横浜型VPP**を実施	・低炭素型次世代交通の普及、住宅・建築物の省エネ化など（地球温暖化対策実行計画） ・緑の持つ多様な機能を発揮し、グリーンインフラとしての活用を推進（横浜みどりアップ計画）

① 持続可能な未来につながる気候変動への対応

- **建築物の省エネ対策**や、再エネ由来の電気や熱等の**自立分散型エネルギーの利用**促進。
- 環境負荷の低減につながる**交通インフラ**の形成（マイカー交通から公共交通への転換、ＥＶ（電気自動車）充電設備や水素ステーションの整備等）
- 廃棄物などの様々な資源が新たなエネルギーとして再利用・有効活用されるなど、**循環型の都市構造**の構築。

環境

「環境」のテーマの設定案

豊かな自然環境を市民一人ひとりが実感できる都市づくり

分析の視点②：自然環境の維持・創出

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・**農地は年々減少**しているが耕作放棄地は少ない。農家も減少。 ・都市農業振興基本法は**農地を都市にあるべきものとして位置付け** ・**生産緑地、田園住居地域**など制度改正	・農地は郊外部のほか**都心・郊外部にも分布** ・本市独自制度の**農業専用地区**は市内に28地区、1,071haを指定	・社会状況の変化に対応した都市農地等の保全制度の活用(横浜市水と緑の基本計画) ・市民が身近に農を感じる場として良好な農景観の保全、農とふれあう場づくり(横浜みどりアップ計画)

② 豊かな水・緑を保全・創出するまちづくり

- 樹林地の保全、公園や水辺環境の整備、豊かな海づくりなど、多様で豊かな**自然環境や景観の保全・創出**
- 緑の適切な維持管理や、水質の回復等による、**多様な生き物が生育・生息**できる環境の形成
- **都市と農が共生**するまちづくりの推進（都市機能強化と一体となった農業振興など）

谷戸の風景（緑の10大拠点のひとつ 戸塚区舞岡公園）
（公園とみどり 横浜の150年より）

環境

「環境」のテーマの設定案

豊かな自然環境を市民一人ひとりが実感できる都市づくり

分析の視点③：身近な自然環境

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・**官民連携**による公園や水辺を活用する取組が普及 ・健康づくりやWell Beingへの意識の高まり ・新型コロナを契機として、**オープンスペースの必要性が再認識**	・商業系用途における**緑被率の低さ**が顕著 ・都市の水辺は**公民による多様な手法**で整備・活用されている	・魅力向上等に**有効な緑**や**水際線を生かした水辺環境**の整備（京浜臨海部再編整備マスタープラン） ・河川、公園等**公共空間や遊休施設を活動の場**として活用(横浜市景観ビジョン) ・**ウォーキングマップ**の作成、活用したイベント開催(健康横浜21)

③ 市民が豊かな自然環境を身近に実感できるまちづくり

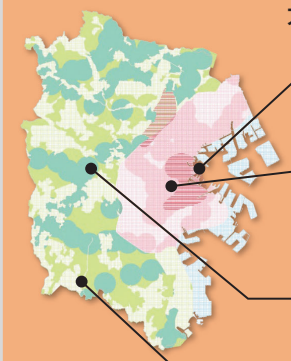
- 民間活力の導入による、更なる**緑や水辺の魅力の向上**（Park-PFIの推進など）
- 市民が水や緑と関わり、また**水や緑により交流が生まれる**まちづくりの促進
- 生物多様性保全に向けた行動変容や、**環境にやさしいライフスタイル**の実践を促す取組の推進

山下公園レストハウスのPark-PFI事業イメージ
（2022年度供用開始予定
出典：横浜観光情報）

目指す［安全安心］の姿（※次ページ以降の 方針 の前提となる考え方）

様々なリスクに対する取組と、都市の潜在力とが繋がり、
安全安心で、さらに魅力的な都市となっている。

リスク



- 浸水被害のリスク
- 大量の帰宅困難者の発生
- 密集市街地の延焼
- 盛土の滑動崩落
- 内水氾濫・洪水
- がけ崩れ
- 災害時の避難
- 防犯、交通安全

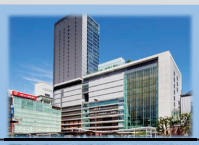
低減

- 都市基盤整備
- 立地の適正化
- グリーンインフラ
- 流域治水
- フェーズフリー
- 事前復興

向上

潜在力（ポテンシャル）

- 商業・業務の中心地



- 鉄道駅から近く、利便性の高い住宅地

- 保全・創出してきた緑地・農地・公園

- 多彩で活発な市民活動

安全安心

「安全安心」のテーマの設定案

**激甚化する自然災害等のリスクを踏まえた
安全・安心の都市づくり**

災害対策

- 防災まちづくりを進めながら**木造密集市街地の立地ポテンシャル**を活かしたまちの魅力を引き出す
- 単なる木密地域の解消ではなく**まちの歴史的な個性を守り**つつ安全安心な暮らしが確保できる手法を検討
- 災害への対応は一つのテーマではなく、そのエッセンスを**他のテーマにも染み込ませるような検討**をすべき
- **下水処理の容量は、近年の降雨量との差**が全国的な課題。関連して排水方法についても課題

復興まちづくり

- 災害の事前復興については、市民の意識情勢やまちづくりについて、専門人材も交えた**地域に溶け込んだ取り組み**が必要
- 地域の特性を踏まえて、被災後どのようなまちを作るかというたたき台を、**市民を巻き込んで、事前に議論**した方が良い

ストックの活用

- いざというときに避難場所として**既存ストックの利活用**を検討
- 地域防災力向上という視点から**空き家が地域の拠点**になるような取組

安全安心のまちづくり

- **避難場所の環境は国際的に低いレベル**にあり、どのようにするか議論すべき
- 小学校の**通学路における歩道の設置**についても議論

安全安心

「安全安心」のテーマの設定案

激甚化する自然災害等のリスクを踏まえた安全・安心の都市づくり

分析の視点①：地震災害　分析の視点②：風水害

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・大きな災害を経験するたびに災害対策の視点を拡げてきた ・水災害の激甚化、頻発化を受け、流域治水の考え方に転換	・中区をはじめ旧耐震基準の建物が多く残る ・南区、西区、保土ケ谷区等では狭あい道路の割合が高い ・災害の危険があるエリアにも多くの要配慮者施設が分布	・密集市街地でのまちの不燃化、延焼遮断帯の形成（強靭化地域計画） ・オープンスペースの活用による広域応援活動拠点となる空間の形成（強靭化地域計画）

①街並みや地形に応じた地震・火災、風水害への備え

- **建築物の耐震化促進**や**密集市街地の整備・改善**（狭あい道路の拡幅整備や建物の不燃化促進など）**等**による都市の耐震化
- 沿岸部での**津波対策**や**崖地や造成地での防災対策**、気候変動に伴う水災害の激甚化・頻発化を踏まえた**流域治水による風水害対策**
- 災害リスクの低減に向けた土地利用の誘導と**安全な市街地の形成**（適切な区域区分の設定、**居住エリアの安全性強化の考え方の検討**等）

安全安心

「安全安心」のテーマの設定案

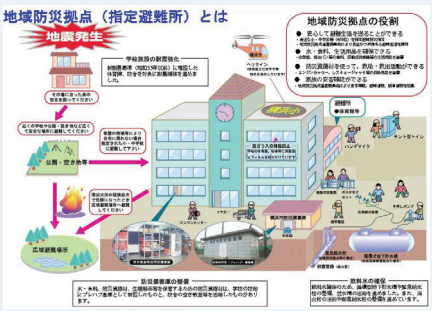
激甚化する自然災害等のリスクを踏まえた安全・安心の都市づくり

分析の視点①：地震災害　分析の視点②：風水害

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
（再掲） ・大きな災害を経験するたびに災害対策の視点を拡げてきた ・水災害の激甚化、頻発化を受け、流域治水の考え方に転換	・臨海部を通過する緊急輸送道路は浸水の恐れがある。また無電柱化は未整備の箇所も多い ・帰宅困難者一時滞在施設や各区にある地域防災拠点の指定等によって受入れの体制づくりが進められている	・災害時の備えや良好な空間形成として、無電柱化推進計画支援事業を推進（横浜市道路整備プログラム） ・エネルギー供給源の多様化・分散化等の取組（強靭化地域計画）

②　災害時における都市機能の確保と円滑な復興

- 災害時の代替性を持った道路ネットワークや無電柱化の推進、ライフラインの耐震化など、**災害時における都市機能の確保**
- **地域防災拠点の充実・強化**と、拠点に至る**安全な避難経路の確保**
- 復興のまちづくりにつながる**市民の意識醸成**やまちづくり活動への支援



地域防災拠点（指定避難所とは）
出典：総務局危機管理部地域防災課資料

2．都市づくりのテーマと方針

安全安心 27

安全安心

「安全安心」のテーマの設定案

激甚化する自然災害等のリスクを踏まえた安全・安心の都市づくり

分析の視点③ 日常からの備え

社会動向分析	都市空間分析	関連計画と都市マス
・平常時から復興に備えた準備（復興事前準備）や、日常のモノやサービスを非常時にも役立てる考え方（フェーズフリー）が広がっている	・地域の主体的な活動である地域まちづくりプランや地域まちづくりルールに取り組む地域がある一方、区によっては自治会への参加率が低いところもある	・災害発生時における応急的、一時的な住まいの確保（横浜市住生活基本計画） ・地域での各種取組みを通じた平時からの復旧・復興における人材の育成・確保（強靭化地域計画）

③ 日常から「もしも」に備えるまちづくり

暮らし ＋ 環境 ＋ 安全安心

- 地域住民と行政が協働で行う防犯活動、交通安全の取組の支援や**防災まちづくりの推進**など**自助・共助の体制強化**
- 日常の取組みが災害時にも活きる**フェーズフリーなまちづくり**（EV交通による利便向上や環境配慮と合わせた災害時の電力供給など）
- 高齢者や障害者、乳幼児、傷病者、外国人など災害時に支援が必要な方々と**地域の連携が進む仕組みづくりや適切な情報周知**

移動の足がいざというときの充電ポートに（豊島区 IKEBUS）

4．次回以降の予定

28

次回以降

都計審諮問（R4.6.22）　都計審中間報告（R5.6頃）　都計審答申（R5.11頃）

	第1回（R4.7.14）	第2回（R4.9.2）	第3回（R5.1.20）	第4回（R5.4頃）	第5回（R5.8頃）	第6回（R5.10頃）
都市づくりの歴史	歴史				答申原案（都市マス） 答申原案（整開保等） 答申原案（線引き）	答申案（都市マス） 答申案（整開保等） 答申案（線引き）
現行都市マス振返り	振返り					
目指す都市像				都市像		
都市づくりのテーマ：暮らし		暮らし		テーマ振り返り		
都市づくりのテーマ：経済		経済				
都市づくりのテーマ：賑わい			賑わい			
都市づくりのテーマ：環境			環境			
都市づくりのテーマ：安全安心			安全安心			
都市像の実現手段				多様な主体との連携等		
地域別構想の方向性			地域別構想			
整開保等				整開保等		
線引き見直し基準				線引き見直し		
都市づくりの実現に向けた土地利用				土地利用		

28